

2018年6月18日

設立50周年記念式典（会長挨拶）

ご挨拶の前に、本日発生しました大阪北部地震により、被害に遭われた方々に対しまして、心からお見舞いを申し上げます。

本日は、大阪電業協会設立50周年記念式典にご参加をいただき、誠にありがとうございます。

また、平素から何かとご指導、ご支援を頂戴しております関係官公庁、関係団体の皆様にご臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本会は、1968年6月に前身である大阪電気設備研究会として設立され、スタートしました。その当時はちょうど高度成長期にあり、2年後に国を挙げての大阪万博の開催が控えておりました。

以来、50年間、社会ではオイルショック、バブル景気とその崩壊、阪神淡路大震災や東日本大震災など、一方、私たちの電設業界では指名入札制度の変更や会員数の激減といった幾多の変化と危機に見舞われてきました。

しかしながら、諸先輩方がそれらに果敢に挑み、乗り越え、ここまで築いてこられました。また、ご関係の皆様のご支援を得ながら、電設業界の進歩・発展に少なからず貢献することができました。諸先輩方、そしてご関係の皆様に対しまして、改めて厚く御礼申し上げます。

いま、大阪も再び2025年万博に立候補し、来年にはG20の開催、そしてIR候補地と話題が豊富で、東京オリンピック後の元気を引き継ごうとしています。

先程の記念講演では、安藤先生より、「元気出せ『大阪』」という演題で、ご自身が携われた建築作品への思いを交えた大変興味深いお話を拝聴し、夢と元気をいただきました。

安藤先生に対しまして、この場をお借りして私からも一言、御礼申し上げます。

電設業界では、永年の課題である担い手不足が顕在化しています。さらに、社会とともに「働き方改革」が進もうとしております。私たち大阪電業協会は、設立当時からの事業目的として、

1. 電気工事に関する調査研究
1. 会員各社の経営の合理化推進
1. 業界全体の技術・技能の向上
1. 電設業界従事者の福祉の増進

の4つを掲げ、50年間、継承してまいりました。

どのような時代の変化があっても、会員の皆様とともにこれら4つの事業目的の達成を目指してまいります。さらに、認知度向上に向け、入職促進事業として電設業界の魅力を幅広くPRしてまいります。

50歳となった大阪電業協会としては「50にして天命を知る」という孔子の詞にあるように、設立50年を機に、会員各社の皆さまとともに、一般社団法人日本電設工業協会の方針のもと「行動する大阪電業協会」として、「若者が働きたいと思う夢と生きがいのある電設業界」にすることを天命として邁進してまいります。

最後に、本日ご臨席の皆様には、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう、お願いを申し上げます。記念式典開会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。以上